

2002年10月18日

報道関係各位

ノバルティスファーマ株式会社

ノバルティス（スイス）が発表しました、田辺製薬との提携に関するリリースの日本語訳をご参考までにお届けします。

ノバルティスファーマ社は田辺製薬との LFA-1 拮抗薬の協業に合意

バーゼル、2002年10月18日 - ノバルティスファーマ社は本日、田辺製薬が創製した白血球機能関連抗原-1（LFA-1）拮抗薬の研究・開発および販売について、田辺製薬株式会社と共同で行うことに合意し契約を締結したことを発表しました。これらの早期段階化合物には、移植時の免疫抑制作用と同様に、炎症性疾患および自己免疫疾患の治療薬としての可能性があります。

本契約のもと、ノバルティスファーマ社は、欧米と他の多くの国々を含む地域で、すべての適応に対して LFA-1 拮抗薬を開発、販売する独占権を獲得します。田辺製薬は、日本および一部のアジア諸国において同様の権利を保持します。これらの早期段階化合物の臨床開発は、2年以内に開始される予定です。

トーマス・エベリング（ノバルティスファーマ社最高経営責任者）は次のように話しています。「LFA-1 拮抗薬は、関節リウマチ、乾癬、移植、多発性硬化症などの新しい治療法としての可能性をもっています。われわれは、田辺製薬とのこの契約によってもたらされる多くの可能性を探ることに、大きな関心を寄せています」。

LFA-1 について

LFA-1 は白血球の表面に発現するインテグリン細胞接着分子であり、白血球の浸潤や T 細胞の活性化に関わっています。白血球の浸潤や T 細胞の活性化は、炎症性疾患の病理において重要な過程とされています。炎症性疾患および自己免疫疾患において LFA-1 を標的とすることの重要性は動物モデルで実証されています。田辺製薬が創製した LFA-1 拮抗薬には、白血球の浸潤や T 細胞の活性化を抑制する作用があり、関節リウマチや乾癬などの自己免疫疾患の治療や、臓器移植後の拒絶反応の予防に用いられる可能性が示唆されています。

上記の発表には、現時点での将来への予想と期待が一部含まれております。従って、その内容に関しては、また将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる可能性があることをご了解ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けております Form 20-F をご参照ください。

以上